



遊んだ日々は過ぎて今は出来る仕事のすべてに突撃を敢行している。いつも、その作業の多さに絶望的な事は多いのだけれど、今だかつて終わらなかった仕事はなかった。また、その絶望的な中で絶望したこともなかった。自分の力を、それも今ある力ではなくこれから生まれてくる力を信じている。多少の体力的な低下はあるが、そんな気持ちはいつも変わらない。

もういくつの仕事を平行してやっているか自分でもわからなくなってきて、これは計画的に作業を進めなくてはならない気質の人にはむきません。感覚的に直感で作業の進展を制御しなければならない世界に入っている。きっちり計画を立てて、その通り進んでいく

のは安心だが、その先はもうその手は通用しない。今まで培ってきたすべてのことを糧として、無意識のレベルで勝算を生み出して行動していくしかない。今はそんな状態です。

自分に枠をはめていないかとも時々考えます。もっと、もっと気持ちよく生きられないか、まったく異なった方法、ルートがあるのではないか。そんなことをいつも考えます。

仕事の合間に5月にビックサイトでやる講演の内容もまとめています。人と水辺はどうかかわっていくかということを考えてみるなどという方向の内容ですが、今までやってきたことの一つの分野を整理してまとめてみるということは自分の生き方をまな板にのせて吟味することで疲れる作業です。なんだ、こんなことだったのかとがっかりもします。しかし、書いている途中でもう、あまり抽象的な事は言わずに、若い技術者たちのためにかんで含めて言えればいいのだと考え直しました。なにかっよくやる必要なんてなかったのだと思うと、気持ちが明るくなりました。背伸びはしないほうがいいのです。

それから、ネパールで会った二人から手紙が来て「ペワ湖のほとりの宿の屋上で書いています。もう一ヶ月もこちらにいて、回りの人達との別れがつらくなりそうで、あと三日ほど文を書いたらインドへ自転車で出発します。」そういつてきました。こちらメールが行き交い、ネパールの青年も来たりして沢山のひとと会い、あいかわらず安飲み屋で飲んでいきます。飲むにつれ、この混沌とした自分の生きかたを感じて呆然とします。どれもまだみんな漠然としていて、どこへ向かっているかもはっきりとは言えないのです。飲むほどに頭の芯も冷たく冷えてきて、人の顔のその先の方に視線が行きがちになるのです。ばあさんの受け皿までこぼしてくれる酒の流れや手元を目で追いながら、このコップ一杯の世界と、外の世界全部と、はて、どちらが大きいのか本当にわかるのかと自分に聞いてみたりするのです。

ノーム相変わらず忙しく、5月31日に東京ビックサイトで行う講座の準備もあり当分遊んだ分は精出して働いております。しかし友人達の来訪はいつでも歓迎します。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com